

香川大学 大学教育基盤センターニュース

No.11 令和2年11月

*Higher Education Center
Kagawa University*

香川大学 大学教育基盤センター
〒760-8521 高松市幸町1-1
Tel 087-832-1151~1154
Fax 087-832-1155
<https://www.kagawa-u.ac.jp/high-edu/>

目 次

1. よりよい授業のためのFDワークショップ報告…………… 1
2. FDスキルアップ講座報告…………… 3
3. 新スタッフからの一言…………… 7

1. よりよい授業のための FD ワークショップ報告

日時：令和2年9月14日（月）～15日（火）

場所：香川大学幸町北キャンパス

第11回「よりよい授業のためのFDワークショップ」が、令和2年9月14日（月）～15日（火）に、香川大学幸町北キャンパスにおいて開催されました。このワークショップは平成22年より毎年開催されており、本学大学教育基盤センターの教員が講師を務めています。今回の参加者は、16名（香川大学15名、高松大学1名）でした。ワークショップは、新型コロナウイルス感染症対策を行ったうえで、対面で実施されました。対策としてたとえば、入口では消毒や検温を実施し、参加者はマスクやフェイスシールド（参加全員に配布）を着用し、机の間にはアクリルボードを設置し、換気をしながら、ワークショップが行われました。



ワークショップの目的は、授業を担当するにあたって必要となる基礎的な知識と技術を学ぶことでした。具体的には、授業の構想・設計・実施・評価に関わる一連の過程をグループ作業として体験し、参加者相互の話し合いを経てそれに関する能力を身につけるといったものでした。

■プログラム概要 ※GW=グループワーク

1日目（研修は8:50～17:50）

- ・オリエンテーション
- ・アイスブレイキング
- ・GW I「学生の考えるよい授業」
- ・講義 I「シラバスの書き方」
- ・GW II「全学共通科目の開発 I」
- ・講義 II「学生参加型授業の技法」
- ・講義 III「よりよい学習評価のために」
- ・GW III「全学共通科目の開発 II」
- ・グループ発表 I「中間発表」

2日目（研修は8:50～15:30）

- ・ふりかえり
- ・GW IV「全学共通科目の開発 III」
- ・GW V「全学共通科目の開発 IV」
- ・グループ発表 II「最終発表」
- ・閉会式

ワークショップのプログラムは主に、講義、グループワーク、そしてグループ発表で構成されていました。参加者は全員パソコンを持参し Microsoft Teams なども使いながら、ワークショップは行われました。講義やグループ発表は1つの教室で実施されましたが、グループワークは各グループがそれぞれ1つの教室を使用しました。講義では、遠隔授業で使うことができる技法やツールについても学ぶことができました。グループワークでは、4人ずつ4グループに分かれて全学共通科目の開発を行い、シラバスと授業計画案等を作成しました。シラバスと授業計画案等の作成には、遠隔授業を意識した内容も組み込まれていました。

このように今回のワークショップは、新型コロナウイルス感染症対策を行ったうえで、対面で実施されました。参加者は、対面授業と遠隔授業の両方の技術やツールを学ぶことができました。

ワークショップを開催するにあたり、大学教育基盤センターの教員の方々と、修学支援グループの職員の方々は、入念な準備や運営等を行ってくださいました。ありがとうございました。来年度も、多様な形態の授業を実施するための技法やツールなどを、体験しながら学ぶことができる貴重な場になることを願っております。(文責・小坂有資)



2. FD スキルアップ講座報告

- 講義名：「充実させよう！アクティブラーニング型授業」
- 日 時：令和2年9月24日（木）14:40～16:10
- 場 所：オンライン開催(Zoom)
- 講 師：葛城浩一（大学教育基盤センター）

アクティブラーニングとは、「教員の一方的な講義形式の授業とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称」と中央教育審議会は定義しています。このアクティブラーニング型授業が求められる背景には、生涯にわたって主体的に学ぶことができる人材の育成の必要性があります。大学教育においても、学習者中心の授業を通し、より主体的に学ぶ力や他者との協同学習の技法を身につけることが重要視されています。

しかしながら、アクティブラーニング型授業における教育的効果や、教員の取り組み方については未だ十分に理解されていない面もあります。本講座では、アクティブラーニングはグループ学習に限られるのか、大人数クラスでは可能なのか、教員の準備や伝達量、教育効果はどの程度なのか、というような疑問点や誤解をされている部分について、理論的に、また実際の検証に基づいて説明し、受講者が自分自身の授業に応用することができるように、より深くアクティブラーニングについて教授しています。（文責：ウィリアムズ厚子）

- 講義名：「充実させよう！アクティブラーニング型授業－話し合い・教え合いの技法－」
- 日 時：令和2年9月24日（木）16:20～17:50
- 場 所：オンライン開催(Zoom)
- 講 師：佐藤慶太（大学教育基盤センター）

本講座では、アクティブラーニング型授業における共同学習について取り上げています。ペアやグループによる共同学習には、教員側の意図的な計画が必要とされます。ここでは、共同学習として、学修者が積極的に話し合ったり教え合ったりできるような授業にするための技法を具体的に教授しています。また、受講者が自分自身の授業に応用することができるように演習活動を取り入れています。

今回は、教え合いの技法である6つの技法の中の「ジグソー学習」を実際にグループ演習に取り入れ、同じく教え合いの技法である「テスト・テイキング」、「ノート・テイキング」、「ロール・プレイ」について教え合うという活動を通して、受講者が効率的に4つの技法を体験学習することができました。また、講師が実際に授業で採用した、ペアで問題を出し合う「ラーニング＝セル」、代表者がディスカッションをする「フィッシュボウル」、紙上でディスカッションをする「サイレント＝ダイアログ」の3つの技法を紹介し、具体的な方法と学生の反応について説明をしました。受講者は、自分の授業に生かせる実践的な知識を得ることができました。（文責：ウィリアムズ厚子）

- 講義名：「充実させよう！アクティブラーニング型授業－図解・文章作成の技法－」
- 日 時：令和2年9月25日（金）13:00～14:30
- 場 所：オンライン開催(Zoom)
- 講 師：西本佳代（大学教育基盤センター）

図解は、複雑な情報をひとまとまりの図として示したり、文字情報だけでは伝えることのできない情報のパターンや関係性を分かりやすくしたりすることで、学修者が容易に情報を理解し記憶することができます。また、学修者は図解による情報収集の枠組みを使って、自分の考えを明確にするだけでなく、他者への説明も効果的に行うことができます。さらに、図解は思考や理解の過程を示せることから、学修者の評価にも効果的に用いることができます。

文章作成は、学修者が自分の考えをまとめ、首尾一貫した文章を書くことで批判的な思考力を高め、専門分野における理解を深めることに役立ちます。

本講座では、5つの図解の技法と7つの文章作成の技法を紹介し、それぞれその活動の仕方と有用性について説明をしました。受講者は、図解や文章作成の技法を用いたディープラーニングを目指した授業を作成し、ペアワークによる発表やコメントを通して体験的に理解することができました。（文責：ウィリアムズ厚子）

- 講義名：「充実させよう！アクティブラーニング型授業－問題解決の技法－」
- 日 時：令和2年9月25日（金）14:40～16:10
- 場 所：オンライン開催(Zoom)
- 講 師：三宅岳史（教育学部）

学修者が問題に直面した時、鋭敏な判断力や時には価値観の見直しが必要とされます。そのためには解決すべき問題が何であるかをきちんと見極める術を知っておくことが重要になります。また、そのような知識は、難しい課題に対する学習動機を高めることにも繋がります。したがって、そのような困難な問題を授業で提示することは、学修者の広い知識に基づいた思考を促進させ、生涯にわたる問題解決能力の育成に繋がると言えます。

本講座では、問題解決のための枠組みとして6つの技法を紹介し、それぞれ異なる問題解決のプロセスを説明することで、それぞれの教育的なアプローチを教授しています。ここでは、6つの技法のうち、ペアワークによる「タップス」、グループワークによる「センド＝ア＝プロブレム」と「ケース＝スタディ」の3つの技法を取り上げ、受講者は実際の社会問題に取り組みながらその技法を実践的に身に着けることができました。（文責：ウィリアムズ厚子）

- 講義名：「事例から学ぶ問題発見・解決型授業のコツ」
- 日 時：令和2年9月25日（金）16:20～17:50
- 場 所：オンライン開催(Zoom)
- 講 師：小坂有資（大学教育基盤センター）

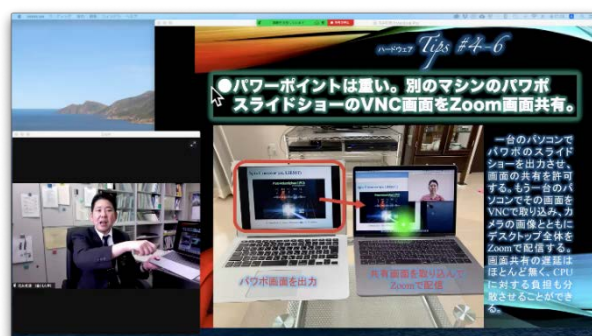
文部科学省により、平成30年6月に発表された「第3期教育振興基本計画」では、「今後の教育政策に関する基本的な方針」として、「1.夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力を育成する。2.社会の持続的な発展を牽引するための多様な力を育成する。3.生涯学び、活躍できる環境を整える。4.誰もが社会の担い手となるための学びのセーフティネットを構築する。5.教育政策推進のための基盤を整備する。」の5つが掲げられています。そして、今後5年間の教育政策の目標の1つとして、上記1の高等教育における具体的項目に「問題発見・解決能力の修得」が明記されています。

本学では、「学士過程の教育理念」におけるディプロマ・ポリシーの構成要素の1つに、「問題解決・課題探求能力の育成」を掲げています。そして、主題B「現代社会の諸課題」において、学生の課題発見、課題解決能力を育成することに主眼を置いています。中でも、DRI（デザイン思考能力の育成に関する科目）教育を全学的に発展させて授業の充実を図っています。

本講座では、このような問題発見・解決型の授業の事例を紹介し、それぞれの授業における特徴やコツを教授しています。ここでは、「経済」、「農業」、「医療」をテーマとした課題発見型授業と課題解決型の例を提示しながら、授業展開の方法を説明しました。また、最後に受講者は自分の授業での課題を設定し、グループで意見交換をすることでより実践的な取り組みをすることができました。（文責：ウィリアムズ厚子）

- 講座名：「リアルタイムに行う遠隔講義のコツ
ーZoom 初心者からのステップアップを目指してー」
- 日 時：令和2年9月25日（金）10：30～12：00
- 場 所：オンライン開催(Zoom)
- 講 師：石井知彦（創造工学部／大学教育基盤センター能力開発部）

本講座は、大学教育基盤センターが企画する遠隔講義 FD シリーズの第3弾です。先に実施した2つの講座はいずれも遠隔講義を行う上での大枠についての知識・経験を共有する非常に良い機会でありましたが、さらに遠隔講義を行う上での詳細（ハウツーを含む）についての知識・経験を共有する機会も提供したい、というのが本講座を企画した趣旨です。講師である石井先生は、教育に関するFDを所掌する能力開発部の部長ということもあり、並々な熱意でこの講座をご担当いただき、単にハードウェアやソフトウェアについてのティップスのみならず、遠隔講義を行う上での心構えについてのティップスについても多数ご紹介いただき、非常に有意義な時間となりました。今後、コロナが落ち着いてくれば遠隔講義を行う必要性に迫られることは少なくなるかもしれませんが、石井先生も最後におっしゃっていたように、遠隔講義のコツは知っておいて損はありません。当日視聴できなかった教員も Moodle からアクセスできるのでぜひ視聴していただければ幸いです。（文責：葛城浩一）



3. 新スタッフからの一言

修学支援グループ 小橋美幸

令和2年10月1日付で修学支援グループの配属となりました、小橋（こはし）です。

昨年度から9月まで文部科学省の行政実務研修生でしたが、この度、大学へ戻ってまいりました。研修中は私立大学等の補助金を扱う部署に所属していましたが、オンライン授業の実施等、例年とは違った課題に直面する各大学の状況を聞いており、香川大学の状況も気になる場所でした。

今後は私自身も対応する側となり、まだまだ勉強の毎日で至らない点も多いと思いますが、これから頑張っていきますので、どうぞよろしく願いいたします。



原稿を募集しています。

☆全学共通科目を担当して感じたことや意見等があれば、是非投稿してください。

★各学部が取り組んでいる教育改革も、積極的に取りあげていくつもりです。

☆宛先は、紀要編集委員会（修学支援グループ）までお願いします。